

山陰は雪山の宝庫

～身近な山でスノーハイクを楽しむ～

藤井 諭

山陰は雪山の宝庫である。コロナで他県移動の行動が制限されても、県内にはスノーハイクを楽しめる山がたくさんある。冬季は登山を休む方も多いが、せっかく雪山に恵まれているので、自然の中で体を存分に動かしより健康に過ごしたらどうだろうか？私は雪が降るとワクワクし、次の晴れ間が覗く日を待つ。満を持して山へ入ると純白の世界は誠に美しく、雪のラッセルで夢中になる。ここでは最近登った4つの山のスノーハイクを紹介したい。

大出日山

今シーズン初めての雪山は昨年12月28日で、大出日山で荒天の合間を狙ってスノーハイクを楽しんだ。大出日山は近くで雪深く手軽に雪を楽しめる貴重な山だ。予定通り雪の止んだ直後で、まだ誰も入っていなかった。今シーズン初のスノーシュー（写真）で、ラッセルを十分に楽しむ事が出来た。一人ラッセルは体力を要し、時間も無雪期の倍以上かかる。積雪30センチにスノーシューもググッ！と鳴って潜り、汗が出てくる。この感触がたまらない快感なのだ！



8合目からは真っ白な山王寺集落や、雪を被って白い大東から加茂までの街並みが望まれた。午後の出発だったため、ここでタムアップとなり引き返した。シーズン到来の試運転で、雪の感触を十分に味わえたスノーハイクだった。半日の空き時間でも近所でスノーハイクが楽しめる、これが山陰の雪山の魅力でもある。

大人山

1月15日、新雪のスノーハイクを楽しみに奥出雲の大人山に登った。期待通り誰も入った形跡がなく、一人ラッセルで快適に山頂に至った。その帰りに山頂下の展望台で、木次線の撮影を行った。お目当ては雪原の木次線を走る赤い汽車の撮影（写真）、本日は撮り鉄だ。無事に撮影出来て安心してそのまま下山、大東まで帰ったところで三脚を忘れたことに気が付いたが時すでに遅し！



12日後の1月28日、置き忘れた三脚を回収に再び大人山へ登った。雪はほとんど消えていたが、最近2人組が登った足跡があった。忘れ物は同じ場所に同じ形で残っていた。うれしい！何人の登山者の目に触れたが判らないが、そっとしておいてくれる出雲の国の登山者は温かいと思った。せっかく登ったので、出雲八代駅を走る汽車の撮り鉄を再び楽しんだ。

玉峰山

クラブ山行がコロナで停止となり、1月22日に個人山行で冬山装備を新規購入した藤原さんを雪山に誘って行った。雪の日の合間の好天を狙って玉峰山へ。玉峰山荘から尾根に取り付きラッセルを開始した。

目次さん達白樺クラブ6人、吉本さん達神名火山の会3人など、パーティが4組も登って来たのには驚いた。積雪は50cm、各パーティでラッセルを交代しながら、汗をかいて山頂に至った。山頂で皆そろってのランチタイムだった(写真)。



玉峰山荘から山頂までの尾根沿いのルートは長い。去年は単独で途中力尽きて引き返したが、今年はその雪辱を果たせて良かった。山頂まで3時間半、無雪期の倍の時間だった。長いルートは交代しながらラッセルできると効率よい。

三郡山

2月3日、雪の合間の穏やかな日に単独で登った。三郡山は無雪期に何度も登っているが、雪山では初めてだった。普段は易しいハイキングの山が、雪が積もるとラッセルで手ごたえある山に変貌する。わずかなトレールも尾根に取り付くと風雪で消え、積雪70cmのラッセルとなった。

山頂は雪に覆われ、純白で美しかった(写真)。風もなく雪の山頂は暖かい。穏やかな天気の良い山頂で熱いランチは美味しかった。南に先日ラッセルした玉峰山、陽光に浮かぶ吾妻山と比婆山、北に出雲北山と宍道湖・中海の大展望が望まれた。



コースタイムは登3時間で無雪期の倍かかり、一人ラッセルがきつかった。そうして苦勞して山頂に立つと満足感はより大きい。翌日は筋肉痛、これがまたたまらないのだ！